

促成伏せ込みアスパラガス1年半株養成の定植時期と秋・春の窒素施肥割合

佐藤正昭

(岩手県農業研究センター県北農業研究所)

Timing of Planting and Fertilizing Method in Asparagus Forcing Culture Using One and Half-year-old Rootstock

Masaaki SATO

(Iwate Agricultural Reserch Center Kenpoku Agricultural Institute)

1 はじめに

岩手県における促成伏せ込みアスパラガスは、高原レタス等土地利用型野菜との輪作品目として栽培されている。

通常は1年株養成法が主流であるが、育苗に暖房を用いない1年半株養成法¹⁾が徐々に導入されている。そこで、レタス栽培と競合しない定植時期ならびに収量の高い秋・春の窒素施肥割合を検討する。

窒素30kg/10a相当量施用

春肥 秋肥と同じ肥料を窒素30kg/10a相当量

春肥：黒マルチの株間部にカッターで切れ目、手施肥

(5)試験区の設定

レタス栽培と競合しない9月以降の定植区3区を設けた(詳細は表1に示した)。

(6)調査内容

(ア)生育指数(GI') 最長茎長(cm)×茎径(mm)
×50cm以上の茎本数(本)

2 試験方法

試験1 定植時期が翌年の生育に与える影響

(1)試験場所 九戸郡軽米町 県北農業研究所ほ場
標高220m 腐植質黒ぼく土

(2)試験規模 1区15株定植 10株調査 2連制

(3)供試品種 ウェルカム

(4)耕種概要

(ア)播種 55穴セルトレイ 園芸培土N220

(イ)栽植密度 株間45cm、畝間140cm 黒マルチ

(エ)施肥量 バーク堆肥3t/10a

秋肥 高度化成肥料：窒素15リン酸15カリ15%

表1 試験設計(平成18年)

処理区	播種 月日	定植 月日
①9月上旬	7月6日	9月4日
②9月下旬	7月31日	9月21日
③10月下旬	9月1日	10月20日

試験2 秋肥と春肥の施用量割合と若茎収量

(1)耕種概要(試験1との相違部分)

(ア)播種日 平成19年8月10日 定植日 10月2日

(イ)掘り上げ日 平成20年11月25日

(ウ)伏せ込み日 平成20年11月28日

(2)調査項目

(ア)若茎収量調査 4g以上、26cmを基準として収穫。

(3)試験区の設定

秋肥・春肥の割合を変えながら、7区を設けた(詳細は表2に示した)。

表2 試験設計(平成19年)

処理区	定植時秋 窒素施用量	越年春 窒素施用量	合計 (kg/10a)
①秋30・春15	30	15	45
②秋30・春0	30	0	30
③秋15・春15	15	15	30
④秋15・春0	15	0	15
⑤秋0・春30	0	30	30
⑥秋0・春15	0	15	15
⑦秋0・春0	0	0	0

表3 1年半株の越冬株率（平成18年定植、19年春調査）

処理区	生存株数	越冬
	定植株数	株率(%)
① 9月上旬区	268/270	99.3
② 9月下旬区	264/270	97.8
③ 10月下旬区	251/268	93.7

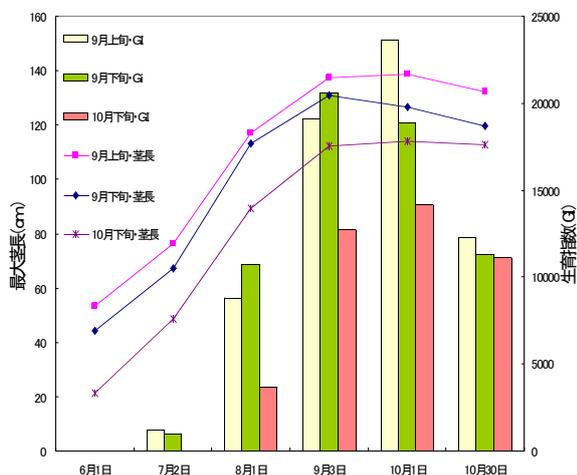


図1 定植時期と生育量(平成19年調査)

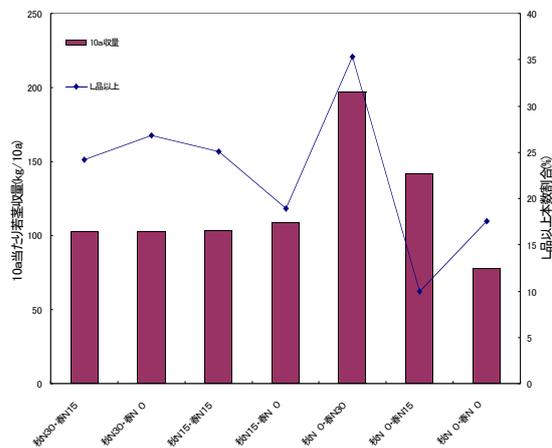


図2 秋・春施肥量割合と収量（平成20年調査）

3 試験結果及び考察

(1) 定植時期が翌年の生育に与える影響

レタス栽培と作期が競合しない9月以降をアスパラガス1年半株養成の定植時期と設定し、3段階の定植日を検討した結果、翌年春の越冬株率は9月上旬、下旬区が高く、10月下旬区がやや劣る傾向を示した(表3)。

また、最大茎長並びに生育指数(GI')では9月上旬区が最も優れ、9月下旬、10月下旬区の順に低下する傾向を示した(図1)。

この結果から定植翌年の安定した生育量を確保するには、遅くとも9月下旬までに定植することが必要と考えられた。

(2) 秋肥と春肥の窒素施用量割合と若茎収量

秋肥と春肥の施用割合を表2のとおり7水準で試験したところ、秋0・春30区の若茎収量が最も多い傾向を示した(図2)。

秋肥にシグモイド系の肥効調節型肥料(ロング肥料)を用いれば、基肥1回施肥で1年半株養成に対応でき、さらに省力化できる可能性も

あるので、この点については継続試験を行う予定である。

4 まとめ

育苗に暖房経費を用せず低コスト生産が期待される促成伏せ込みアスパラガスの1年半株養成法について、レタス栽培と作期が競合しない9月以降における定植時期を検討したところ、9月下旬までの定植で翌年の生育が順調であった。

また、秋肥と春肥の施肥割合を検討したところ、秋肥の施用量の多寡は影響せず、春肥に窒素換算で30kgあるいは15kgを施せば比較的収量が多い傾向を示した。

引用文献

- 1) 小泉丈晴・仲條博也 2008. 伏せ込み促成アスパラガス栽培における1年半株養成法が茎枯病発生、根株および若茎の生育に及ぼす影響 群馬県農技セ研報. 5:44-45